

「喫煙者の肺がんリスク10~20倍」



参加者らが肺がんの治療法に理解を深めたがんセミナー

■製鉄室蘭病院セミナー

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の第29回「がんセミナー」が25日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、参加者らが喫煙との関係や予防、治療方法などに理解を深めた。

市民ら約50人が参加。田中康正呼吸器内科長が「肺がんの内科的治療」をテーマに講師を務めた。特徴として無制限に増殖し、転移することを説明。また「肺

がんになるリスクは、非喫煙者の10~20倍で、喫煙開始年齢が若いほど高まりま

「す」と講話した。参加者らは静かに耳を傾けていた。

続いて、米国や英国では徹底した禁煙運動により、肺がんの死亡率が低下していることを紹介し「早期発見が最善の治療です」と訴えた。メモを取る参加者の姿も見られ、知識を深めていた。

(柴田圭介)